

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 175 号 (2024 年 10 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



先日、飯野山に登ってきました。久しぶりすぎてペース配分を間違え、さっさか登っている私に「いや～早いね。すごい！」と声をかけて下さった方がいたのです。気をよくした私はハイペースのまま登り切ろうとしましたが、途中で息切れ。頂上について、しばらく立ち上がられません。実は下りでも、その方とすれ違い「何でこんなに違うんだろう？年齢かな？」と、またまたおだてられ、気分を良くした私。危なく足をくじきそうになりました…。普段、ほめられ慣れていないので、こうなってしまうのかも。みなさま、私はほめて伸びるタイプです笑



今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。

(2024.10.01)

“孤独”の中で

周りに家族や友人がいても、充実した人生を送っていても、“寂しい”と感じている方は結構、多いようです。私が中学生のとき、友だちと楽しく遊んで家に帰ると、無性に寂しくなったことがありました。家には両親がいたので、ひとりぼっちという寂しさではなかったはず。空しさというか、何か満たされない思いに心が苦しくなりました。

それから事ある毎に、この寂しさ・空しさが私の内から湧き上がってくるようになったのです。それは決まって、友だちと楽しく充実した時間を過ごした後にやってきました。

今の時代は家に帰ってからも LINE などの SNS で仲間と繋がりが続けることができます。確かに、このように仲間と繋がりが続いている間は、寂しさが多少紛れるかもしれません。でも、いざ一人になると“寂しさ”が顔を出すのです。そのため寝る直前まで、スマホを手放せない人が多いと聞きます。スマホの普及で、逆にみんなの“寂しさ”が増している現実を、ここに見るのです。

また私たちは自分の“寂しさ”から目をそらすために働き過ぎたり、何かに依存したり、予定を詰め込んだりすることがあります。確かに忙しくしたり、没頭することがあったら、“寂しい”という感情が出るスキを与えないかもしれません。でも、これらは根本的な解決にはならないのです。1 年ほど前の新聞に【「寂しさ」と対峙する】というタイトルで、哲学者の谷川嘉浩氏が次のようなコラムを書いておられました。

…哲学者のハンナ・アーレントによると「寂しさ」は「他者に囲まれているのに他者に接することができない」ときに抱く、他者を依存的に求める感覚のことを指す。複数のタスクを並行処理できるスマホという端末を手にとると、私たちは無数の人々に同時多数的につながることができる。しかし、ちゃんと「他者に接している」というと、そんなこともない。

だからこそ、自分自身と過ごす「孤独」が大切になってくる。…



他者の声にまみれやすく、情報の濁流で自分の感覚を見失いやすい時代に自分の声や他者の仕草に目をやる余裕や感性を再起動することができるのは、必死に他者を求めなくてもいい状態、つまり「孤独」においてほかにない。

【朝日新聞デジタル 2023.9.13 「にじいろの議」より】

谷川さんは“寂しさ”に**対峙**するものとして“孤独”を上げておられます。この“孤独”とは、自ら他の人と距離を取り、自分と向き合うこと。様々な雑音から離れて一人になり、自分の内側を探り、丸裸の自分を知る。これは**勇気**が**いる**ことです。なぜなら自分の深い闇、隠しておきたい過去、触れられたくない傷に**スポットライト**が当てられるからです。私たちはなるべくなら、これらを見たくありません。

私もそうでした。自分と向き合うことを、ずっと避けてきたのです。だから**寂しかった**。そんな私でしたが 20 代のある時、“孤独”を経験します。自分と向き合う、向き合わざるを得ない状況に置かれたのです。けれど私は**一人で**、自分と向き合ったわけではありませんでした。自分の心から湧いてくる声を、ただ聞いたのでもなかったのです。

もし私が一人で自分自身と向き合ったら、自分の闇に押しつぶされてしまったことでしょう。自分の愚かさに絶望し、傷をえぐられ、**生きる希望**を失ったはずです。しかし私は“孤独”の中で、一人ではありませんでした。私の闇に、私の隠したい過去に、私の傷に、ずっと**寄り添ってくださった方**がいました。そのお方こそ、私たちを救うのために十字架上で死に、よみがえられた**イエスさま**でした。

イエスさまは私とともに、私の深い心の闇に降りてくだ



さいました。そしてたくさんの傷、赦されないと
思っていた数々の言動に、一緒に向き合っ
てくださったのです。この時、実際にイエスさま
を、この目で見たわけではありません。“孤独”
の中で、イエスさまの温かさ、**ぬくもり**を感じ
たのです。この経験を通して、私は“孤独”を恐
れることが少なくなりました。空しい、何か満
たされないという思いが薄れたのです。それ
は私の心に**イエスさまの愛**とぬくもりが満た
されたからでしょう。

神学者**アウグスティヌス**は「告白」という本
の中で「**あなた（神さま）は、私たちをあなた**

に向けて造られ、私たちの心は、あなた
のうちに安らうまでは安んじな

いからである」と記しています。
私たちは私たちを創られた神
さま、イエスさまの愛とぬくも
りの中で安らうまで“寂しさ”
がなくなり、**空しいまま**なの
です。



だからこそイエスさまは、私たちを招いて
くださいます。「**わたしはあなたの痛み、闇の**
深さを知っている。わたしはあなたとともに
それらと向き合おう。だからわたしのもとに
来ないか」この招きにご一緒に応答すること
ができれば幸いです。

見よ、わたし（イエスさま）は戸の外に立って
たたいている。だれでも、わたしの声を
聞いて戸を開けるなら、わたしはその人の
ところに入って彼とともに食事をし、
彼もわたしとともに食事をする。 [聖書]



- **礼拝** 毎週日曜日 10:30~12:00
- **イズミン・キッズ** 毎週日曜日 9:30~10:20
- **おやこ de えほん** 毎週水曜日 10:30~12:00

* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。

